

# 令和3年度（後半）

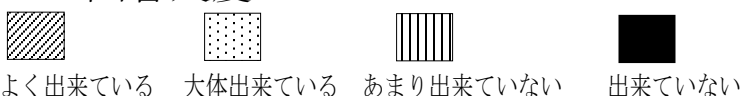
## 【学校評価アンケート結果について】

1月に実施いたしました学校評価アンケートの集計結果を、お知らせいたします。「1・2年児童」「3・4年児童」「5・6年児童」「保護者」「教職員」の結果をグラフで表しています。

三者のアンケート結果から考察したことをお伝えし、今後の改善の指針とさせていただきたいと存じます。

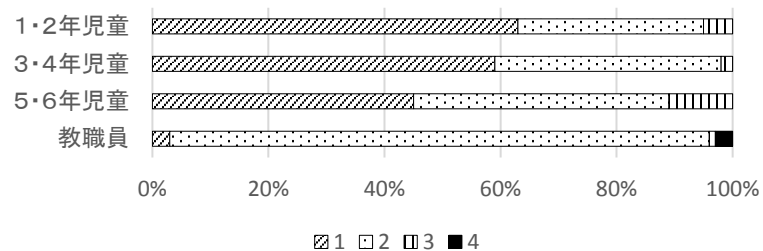
ご協力ありがとうございました。

### <回答尺度>

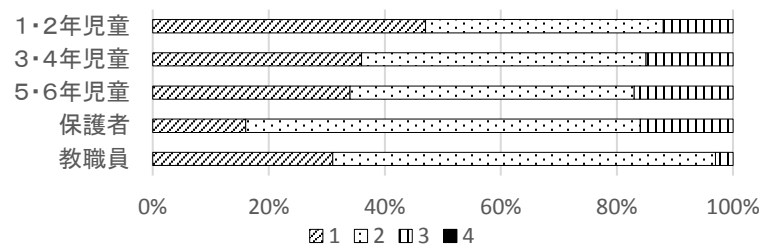


### <進んで学習する子>

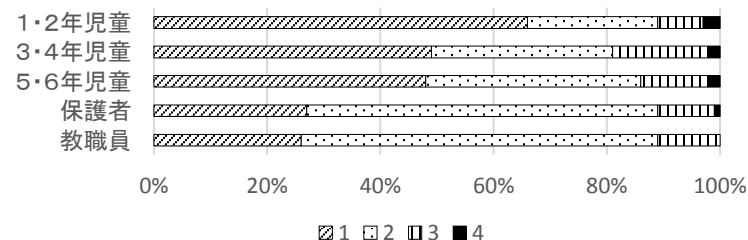
児童 学校の勉強がよくわかる。  
教職員 一人ひとりに分かる授業を工夫している。



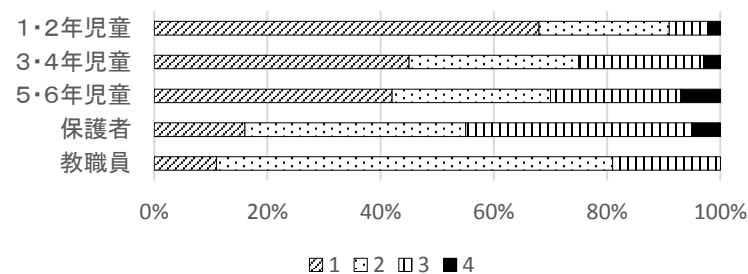
児童 話をしっかりと聞いたり、自分の考えを話したりしている。  
保護者 家庭では、話をしっかりと聞いたり、自分の考えを話したりするように働きかけている。  
教職員 話をしっかりと聞いたり、自分の考えを話したりするようにしている。



児童 宿題で家庭学習に進んで取り組んでいる。  
保護者 家庭では、宿題や家庭学習の習慣が身につくように声をかけたり、励ましたりしている。  
教職員 宿題を家庭学習の習慣が定着するように取り組んでいる。



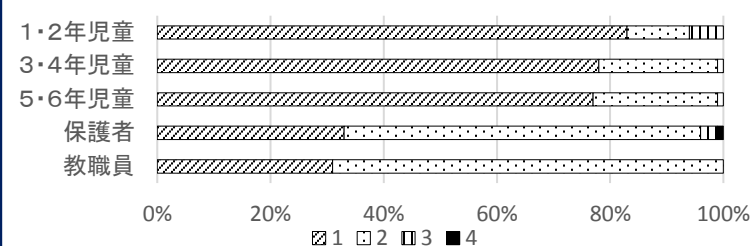
児童 自分から進んで読書に取り組んでいる。  
保護者 家庭では、子どもに進んで本を読むように働きかけている。  
教職員 本が好きな子どもに育つように取り組んでいる。



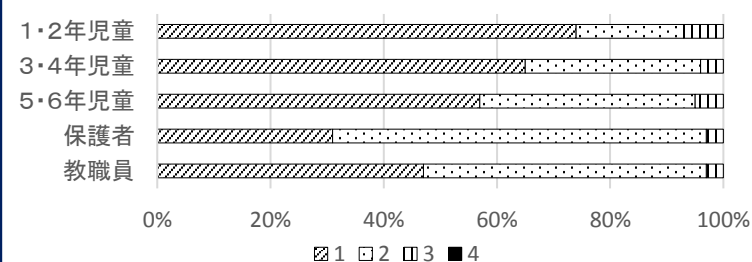
### 【進んで学習する子について】

『学校の勉強がよくわかる』という項目では、児童は「よく分かる」「大体分かる」で90%以上「分かる」と答えています。教職員が授業改善に努め、子どもたちに「分かる」授業を目指してきた結果が今年度後半に表れてきたと考えています。『話をしっかりと聞いたり、自分の考えを話したりしている』では、教職員は95%くらい話す・聞くの指導は行っているものの、児童・保護者は約80%くらいしか話す・聞くの行動がとれていたり、子どもへの働きかけができていないと答えています。学校では、子どもたちが自然と聞きいるような話し方を工夫したり、子どもたちが話す体験を増やしたりすることでより話す力・聞く力の向上を図っていきます。今後も人の話を目で耳で心で聴くことを習慣化し、また子どもたちが自分の考えを進んで話せるように「褒めて」「認めて」やる気を引き出せるよう働きかけていきます。

児童 友だちを大切にし、仲良くしている。  
保護者 家庭では、友だちを大切にしたり、やさしい心が育ったりするように働きかけている。  
教職員 友だちを大切にし、思いやりのある子どもに育つように取り組んでいる。



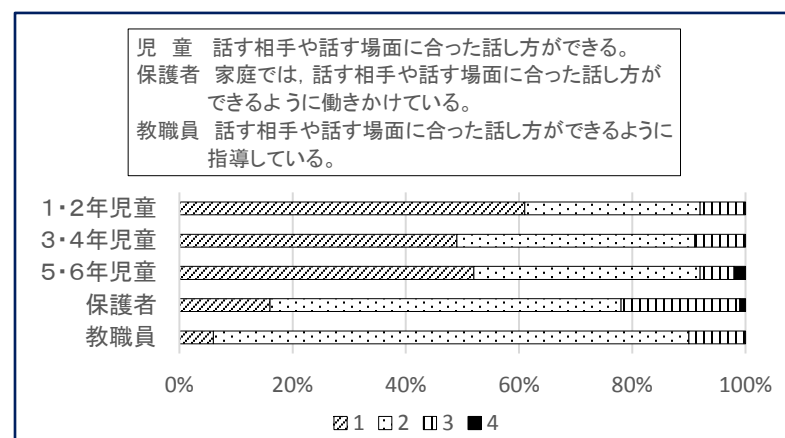
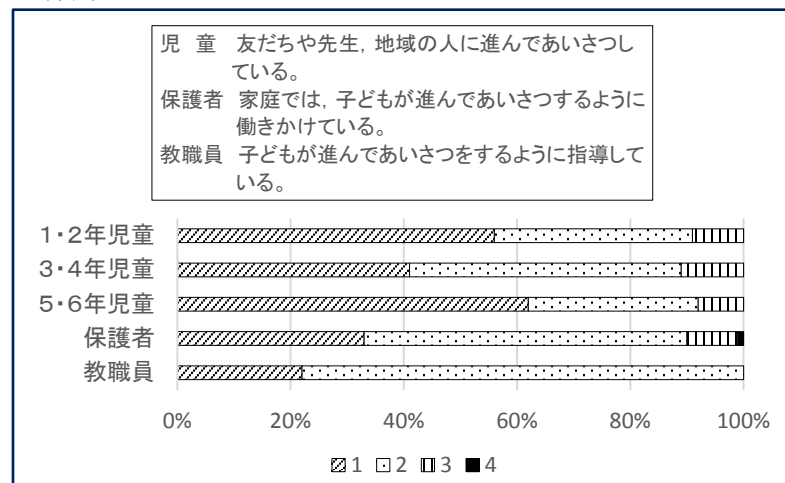
児童 学校のきまりや社会のルールを守っている。  
保護者 家庭では、きまりやルールを守るように働きかけている。  
教職員 学校のきまりや社会のルールを守るように指導している。



### 【思いやるのある子について】

『友だちを大切にし、仲良くしている』という項目では、児童・保護者・教職員共に「よく出来ている」「大体出来ている」が95%以上で、今年度前半と比べると、より高い水準となっていました。道徳科や人権教育の取組の1つである「ともだちの日」の学習、普段の学校生活の中で子どもたちが自分の良さに気づき、仲間のよさを見つけきたからだと考えます。『学校のきまりや社会のルールを守っている』では、保護者・教職員は「よく出来ている」「大体出来ている」を合わせて95%以上ありました。今年度前半と比べると保護者の肯定的な回答が上がっていました。子どもたちは90%以上肯定的な回答でした。子どもたちが、安心・安全な学校生活を送るためには、きまりやルールを守ることが大きなポイントの1つです。ご家庭でもお子様の規範意識が高まるようなお話をいただけるとありがたいです。

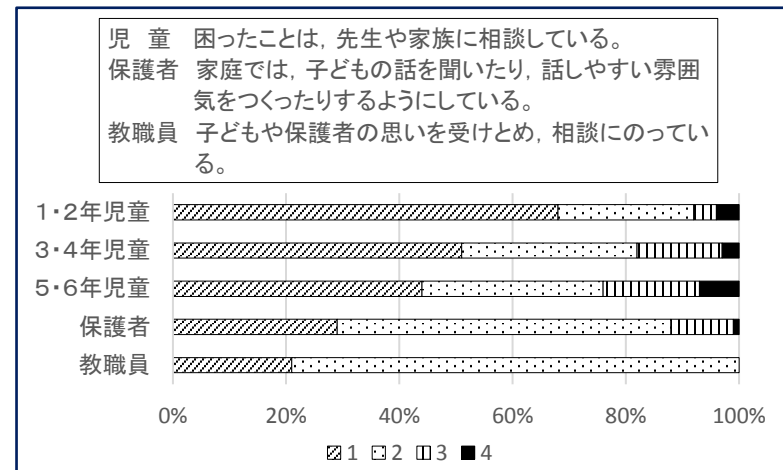
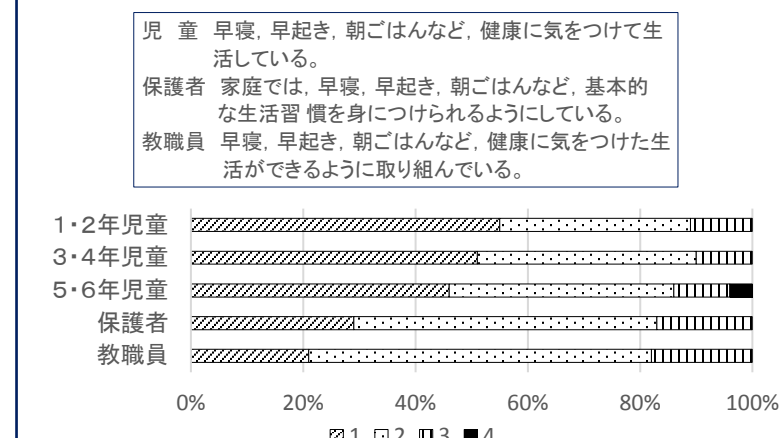
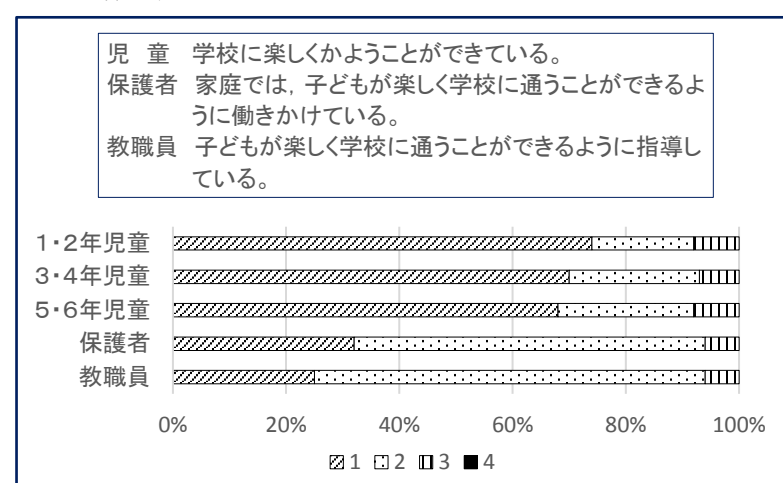
## <仲間とつながる子>



### 【仲間とつながる子について】

『あいさつしている』という項目では、児童・保護者・教職員の意識にバラつきがありました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から大きな声でのあいさつは教室内でも控えてきました。あいさつの基本は、「自分が率先してあいさつすること」と考えます。あいさつすると自分が心地よくなります。子どもたちの様子を見てみるとあいさつする大人には、自分からあいさつしている光景を見かける時があります。今後も教職員が子どもたちにあいさつする姿を見せていくことで自分から「あいさつできる子」が増えていくように取り組みます。『話す場面に合った話し方ができる』という項目では、児童・保護者・教職員を比べるとそれぞれ差がみられ、保護者が80%で一番低い水準です。大人が使用する言葉が子どもの言葉に影響を与えていると聞いたことがあります。学校では、教職員が子どもたちの模範になれるよう「言葉遣い」には十分気をつけていきたいと思ひます。

## <心も体も元気な子>



### 【心も体も元気な子について】

『学校に楽しくかようことができている』という項目では、アンケートの結果、児童は「とても楽しい」「まあまあ楽しい」を合わせて90%以上「楽しい」と感じていました。どの学年においても90%以上という良好な結果がでたことは、教職員にとって嬉しい限りです。『困ったことは先生や家族に相談している』の項目では、児童の年齢が上がるにつれて教師や保護者に相談ができていないというアンケート結果がでました。子どもたちに日々の生活の中で、「今日楽しいことあった?」「いいね!」等プラスの方向に目を向けた問いかけをしたり、褒めたりすることで、大人が常に子どもたちが相談しやすい雰囲気をつくることを心掛けていきたいものです。

### 自由記述欄に記述したのは、保護者の皆様の記述の中から抜粋しました。

- ・簡単に回答することができました。
- ・娘の話を聞いていると、先生方がとても丁寧に子供達を見守ってくださっているのが伝わってきます。ありがとうございます。
- ・行事、参観、部活などがストップし、大変残念ではあるが、毎日本当にありがとうございます。
- ・行事やイベント等々、第一子だとわからない事だらけで、少し不便です。例えば、グリーンスクールってなんの事?とか、ベルマーク収集など。
- ・コロナ対策については、文科省による「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」を軸に過度な対策を取る事なく、学課授業だけでなく子供同士のコミュニケーションなどを含めた学校生活ならではの教育の機会が損なわれることのないよう、客観的指標に基づいた適切な対応をお願いしたい。
- ・ジェンダー、性の問題、多様性などに取り組んで欲しい。先入観のない時期に取り組むことが大事だと思います。と思います。